



### 会社プロフィール

所在地	ふじみ野市亀久保1143-8
代表者	代表取締役 三上俊樹
事業内容	火災報知機受信機、周辺機器の製造、設計、改造、検査、検定受検、全国出張、全国発送
県内事業所	埼玉ホーチキ株式会社
資本金	500万円
従業員数	30名
TEL	049-264-2777
URL	http://www.m-sense.co.jp/

## 株式会社 三谷製作所

### 防災機器で安全と安心を提供する 制御盤メーカー



本社工場。



「人命を守るお手伝いをしたい」と語る同社の三上社長。

一年の中で、二月、三月は火災事故が多発する時期です。防災機器製造に携わる同社の三上社長にお話をうかがいました。

#### ■会社概要を教えてください。

**三上** 昭和四七年、高級ライター組立製造を担い、設立しました。高級ライターに変わり、新分野として目を付けたのが防災事業です。徐々に防災事業へ転換し、今では、ホーチキ株式会社様の協力工場として、火災報知機受信機や周辺機器を手掛けています。

総合防災システムの設計・製造・検査などを行うだけでなく、製品の国家検定受検も行い、製造された製品を全国に発送できることが利点となっています。

「生かされる事、感じる事、継続する事」を経営理念とし、全社員のチームワークで、お客様のご要望にお応えしています。

また、関連会社にはホーチキ製の住宅用火災警報器などを販売、施工、メンテナンスする埼玉ホーチキ株式会社があり、火災警報器を普及させ、火災から人命を守るお手伝いをしています。

#### ■貴社の特徴は。

**三上** 建物内の「火災報知システム」は、人が押す発信機や煙・熱を感知する火災感知器などから火災信号を受け、火災の場所を表示し、ベルを鳴らすという仕組みになっています。しかし、建物の大きさや構造によって、火災感知器や発信機・ベルといった構成機器の接続数が多くなったり少なくなったりと、まちまちです。これらのシステムには、「心臓部」として受信機が設置され、全ての監視・制御をつかさどっています。

当社ではさまざまな建物に対応し、多種多様な火災報知機の受信機を製造しています。

多品種少量で、一機種一品目当り年間数台から五〇〇台程度の製品を得意としています。

汎用機でなく、特殊品（オーダーメイド）で一品モノをつくる基礎技術と匠の技能が集約した会社といえます。

#### ■なぜ、火災警報器の設置が必要なのですか。

**三上** 就寝中に火災に遭い、気づかず逃げ遅れ、犠牲者が発生す



住宅用火災警報器の普及に努める。

## 埼玉ホーチキ 株式会社

所在地 富士見市関沢2-15-32

TEL 049-251-2233

事業内容 三谷製作所の関連会社。住宅用火災警報器などの販売、施工、メンテナンス



設計から製造、検査、検定受験、全国出張、全国配送までできることが当社の強み。



一般的な製造現場に比べ照明を明るくすることで、人に優しい作業環境が整う。

るケースが増えていきます。

そこで、就寝に使用する部屋に、火災警報器を設置することが、火災の被害から生命・財産を守るための手助けとなることから、消防法の規定で、新築、既存問わず、すべての住宅に火災警報器の設置が義務付けられました。

アメリカでは、一九七〇年代から、住宅に火災警報器の設置が義務付けられ、火災による犠牲者を半減することに成功した例もあり、火災被害の防止に有効な手段となっています。

■埼玉ホーチキで販売する火災警報器について教えてください。

三上 火災感知器には、熱をキャッチするタイプの「熱感知器」と煙をキャッチするタイプの「煙感知器」に分かれ、この二つのタイプの火災感知器を建物の構造や設置する場所にあわせて選択します。

煙感知器は、火災をかなり早い段階でキャッチできるので、熱感知器の働きが効きにくい地下室などの場所や火災が発生すると消火活動が難しい高層の部屋や廊下・階段上部などに設置します。

ですから、熱感知器か煙感知器か迷ったら、まずは、煙感知器をおススメします。

ホーチキ製の火災警報器は、煙の感知能力がずば抜けており、省電力で一〇年間の電池寿命があるにもかかわらず、大音量で気づきやすい、虫の入りにくいハニカム構造といった特長があります。

■今後の抱負は。

三上 おかげさまで来々、三谷製作所が四〇周年、埼玉ホーチキが二〇周年を迎えます。人命・財産を守る防災機器メーカーとして、社会貢献していきたいです。

これまで培ってきた技術ノウハウによって、火災報知器関連以外にも多種多様な制御盤製造の引き合いが増えていきますから、レベルアップした制御盤メーカーとして、さらに飛躍したいと思います。

また、日本人の得意とする能力を発揮できれば、世界市場への参入も十分可能だと考えています。日本だけでなく、世界中のお客様に認められる製品を提供していくために、まずは中国市場の開拓を目指します。